

桑野塾

誰でも「これは面白い!」と思ったテーマを語り合う広場

<http://homepage2.nifty.com/deracine/russia/kuwanojuku.htm>

桑野塾 検索

第12回 2012年 4月21日(土) 15:00 ~ 18:00

早稲田大学 早稲田キャンパス 16号館 820号室

★ どなたでもご参加いただけます。会場に直接お越しください。参加無料。

☆ 終了後、近くの居酒屋で懇親会を開催します。(飲食費は別途)

※予約の都合上、懇親会参加をご希望の方はなるべく事前にご連絡いただけますと助かります。

※報告者・タイトルは変更の可能性もあります。ご了承ください。

●問合せ・申込み

大島幹雄(おおしま・みきお) E-mail: IZJ00257@nifty.com / 電話: 090-2207-8185



日本のソルジェニツィン——勝野金政の生涯

報告者: 加藤 哲郎

粛清を生き延び、スターリン体制を告発した男の生き様

勝野金政(1901-84年)は、昭和初期に社会主義実現の理想に燃えてフランス経由でソ連に渡り、片山潜の秘書として活動した。ところが1930年初頭に不当に逮捕され、5年間のラーゲリ生活を体験、釈放後奇跡的に日本への生還をはたした。

以後ソ連社会の現実、特にラーゲリの存在や自由の圧殺を批判する「赤露脱出記」「凍土地帯」等を執筆、発表当時宮本百合子らに酷評されたが、今日では藤井一行により「スターリン体制告発の世界的先駆者」、山口昌男により「日本のソルジェニツィン」と評されている。死後1989年にソ連最高会議幹部会命令で冤罪であったことが認められ、1997年に家族からの申請でロシア政府から名誉回復証明書が届けられた。

*ウィキペディアにも立項されている。【<http://ja.wikipedia.org/wiki/勝野金政>】



左: フランス留学時代の勝野金政 / 右: 勝野金政の遺言

父・勝野金政のラーゲリ記憶検証の旅

報告者: 稲田 明子



父のファイル閲覧

父の足跡を辿り、モスクワ、そして白海へ——

ソ連崩壊の3年後、加藤哲郎教授からの突然の父・勝野金政に対する問い合わせが端となり、10年前に亡くなって封印された父の歴史はこの世に蘇りました。加藤教授の陣頭指揮により、藤井一行教授、モスクワのスドー・ミハイル教授の強力な連携・支援で、すでにソ連時代に名誉回復がなされていることが判明したのです。その後正式にロシア政府から名誉回復を取り付けることができませんでした。

ソ連刑法第58条6項・スパイ罪に問われた5年余りの囚人体験は、父に「理想のソ連」の崩壊をもたらしました。帰国後ソ連の知られざる実相を写しだした一連の著作は、今日ではまさに世界記憶遺産だともいわれます。

1998年6月、この名誉回復に携わった加藤哲郎教授、藤井一行教授、元朝日新聞記者松井覚進夫妻、遺族・勝野真言と稲田明子は、スターリンの粛清遺児スドー・ミハエル教授の待つモスクワに出かけました。

KGB国家公文書館の父のファイル閲覧、プティルスキー監獄、プトヴォ処刑場、ドンスコイ墓地、ラーゲリ体験を語り継ぐ会「ボズブラセニー」会長と会見。さらに、白海のラーゲリ跡を目指し、白海運河(スターリン運河)建設の体験記「赤露脱出記」(1934年出版)、『白海に怒号する』(遺稿)、KGB資料などを案内役にして北上。帰路ペテルブルグでドキュメンタリー映画『スターリン記念運河』を制作したミレイコ・プロスバヴィッチ監督と会談しました。

今回はこうした父の足跡を検証した旅の写真を映しながらご報告させていただきます。



白海運河建設記念碑にて



白海の棧橋跡